

留学生チューター制度の導入

田中 瑠美

1. チューター (tutor) とは何か

チューターとは、大学等に在学する外国人留学生に対して学習や大学生活に関する個別のサポートを行う者のことである。海外の大学で始まった制度であり、日本国内の大学では 1970 年代から国立大学で採用されている。1990 年代後半からは徐々に制度が整備されてきており、現在、多くの大学で実施されている。ボランティアで実施する場合とチューターに謝金を支払う場合がある。

チューター制度の主な目的は、①留学生の学習・研究成果の向上、ならびに②チューター役の学生の国際的な視点を広げることである。①の目的から、原則としてチューター役は同学科の日本人学生（先輩）が務めることが多いが、留学生も上級学年であればチューターになることが可能である。

帝京大学宇都宮キャンパスでは、学生サポートチームと国際交流ルームが協力し、遅ればせながら 2014 年度（平成 26 年度）後期からチューター制度を導入した。本稿はその実践報告である。

2. 宇都宮キャンパスのチューター制度導入の経緯

本キャンパスでは 2008 年度に留学生担当教員（筆者）が着任以来、留学生数の少なさもあり、チューターの役割は主に学生サポートチームスタッフと留学生担当教員が担ってきた。

チューター制度を導入したきっかけとしては、ここ最近留学生数が増加傾向にあり、また、キャンパスの日本人学生と留学生との接点が少ないことから、この制度を通してキャンパス所属の学生間の国際交流につながればと考えたからである。特に 1 年生の留学生にとっては、同学科の日本人学生から学業面でのアドバイスを得られるだけでなく、最初の学友づくりという点からこの制度は有用である。日本人学生にとっては、接する機会の少なかった留学生との交流を通して国際的視点を身につけられるという利点がある。もちろん、問題点も指摘されているが、それについては後述する。

3. 宇都宮キャンパスでのチューターの役割

チューターの主な役割は留学生の学習・研究成果の向上であるが、一般的にその内容については明確にされているわけではない。そこで、本キャンパスでのさらに詳しいサポート内容は以下の通りとした。

- (1) 留学生の学習・研究指導、特に授業科目等の予習・復習、レポート作成などのサポートを重点的に行う。
- (2) 日本語（会話や漢字など）の指導や日本文化を紹介する。
- (3) 日常の世話をする。
 - ① キャンパス内や市内などの施設の案内
 - ② 市役所、銀行など官庁等での諸手続きに同行
 - ③ 買い物、宿舎探しの手伝い
 - ④ その他、留学生に対して必要と思われること

4. 対象者と募集から説明会まで

留学生の中でも特に1年生は大学生活にまだ慣れていないこともあり、チューターの必要性が高い。そのため、1年生に優先的にチューターを付けることにした。2014年度（平成26年度）の留学生の入学者は3名（うち、2年次に編入が1名）であったため、この3名にチューターをつけることにした。

チューターの実施は後期からを予定していたため夏休み中からポスター掲示等で募集を行ったが、後期が始まって思うように希望者が集まらなかった。そのため、急遽学生サポートチームスタッフおよび日本語科目担当教員（筆者）が興味のあるような日本人学生に個別に声をかけ、チューターの選出および説明会、留学生・チューターのマッチングを試みた。具体的には、留学生とチューター役の学生を個別に呼び、日本語科目担当教員が間に入って、自己紹介や簡単なアイスブレイクを行った。

なお、サポート内容の性質から、チューター役は同じ学科の2年生以上の日本人学生とした。留学生からは、特に学科の勉強を教えてもらいたいという要望もあった。留学生の国籍と学科、チューターの学科と学年に関する詳細は次の通りである。

	学科	チューターの情報
マレーシア人（男性）	機械・精密システム学科	日本人（男性）3名 2名：機械学科3年 1名：機械学科2年
中国人（男性）	ヒューマン情報システム学科	日本人（男性） ヒューマン情報システム学科4年
ベトナム人（男性）	地域経済学科	日本人（男性） 地域経済学科3年

5. 実際の活動内容

全体説明会および個別マッチングの後から各ペアそれぞれチューター活動に入った。チューターには謝金の支払いが発生する関係上、計画書・報告書の提出、各回の初めと終わりに学生サポートチーム窓口に行き書類にサインすること、後期終わりのチューター報告会への出席を義務づけた。活動時の主な流れは次の通りである。

- (1) 留学生とチューターが実施計画書を作成し学生サポートチームに提出
- (2) 活動日についてはお互いの授業がない時間で調整をする
- (3) 活動前には毎回学生サポートチームに行き報告書用紙を受け取る
- (4) 活動後には実施時間等を記入し、留学生からのサインをもらい報告書を学生サポートチームに提出

活動の期間は後期はじめから終了時まで行い、原則としてテスト期間は設けないこととしたが、留学生からの希望があり、なおかつチューターの学生の都合がつけば行っても良いとした。なお、基本的に学内で平日に実施すること、チューター活動に含めて良いかどうか判断が難しい活動については学生サポートチームスタッフあるいは日本語科目担当教員に相談するように説明した。

実際の主な活動内容は、次のように勉強（専門科目もしくは日本語）に関することと生活に関する相談に大別される。

勉強	生活
テスト対策 単位の取り方について レポートの書き方、文章添削 日本語の発音練習	大学外の悩み相談 アルバイトについて

1 回当たりの平均活動時間は 2 時間で、合計活動時間の平均は 10 時間であった。

6. 報告会

後期の終わりに報告会を実施した。参加者はチューター、留学生、教職員、次年度チューター希望の学生であった。

チューター活動を通して学んだこととして、「積極性の大切さ」、「言葉の大切さ」、「相手の国のことについて」、「日本について改めて勉強できた」などの報告があった。留学生側からは「レポートの書き方や日本語そのものについて学ぶことができた」、「同学年の日本人学生に話しかける勇気が得られた」、「日本人の考え方が理解できるようになった」との報告があった。

7. 今後の課題(チューター報告会から見えてきたこと)

7.1 チューターのサポート

報告会で一部のチューターから「活動中、サポートの仕方が良いのかどうか自信が持てないときがあった」、「他のチューターがどのようなサポートをしているのか知りたかった」という意見があった。

今後はチューター及び留学生の情報交換の場を設け、互いのブラッシュアップにつなげていきたい。

7.2 活動の日程調整

特に 1 人の留学生に対して複数のチューターがついたグループでは、チューター開始直後は活動日の日程調整をすることが難しかったと述べている。このグループでは学生自らが試行錯誤し、SNS のグループ機能を使って日程調整や

情報の共有を行っていた。学生が日常的に利用する SNS の積極的な利用を検討していきたい。

7.3 チューターと留学生が打ち解けるためのイベント

留学生から出た意見で最も多かったのは、チューター説明会およびマッチングを経て、いきなりチューター活動に入るのは難しいという点である。マッチングである程度アイスブレイクはあるものの、チューターと留学生はほとんど初対面に近い形でチューター活動に入る。留学生からは、そのような間柄で学生生活やその他の相談をすることは難しいとの意見が出た。今後は実施期間中に数回、チューターと留学生が交流できるイベントを企画していきたい。

7.4 チューターの獲得

今回チューター制度を利用した留学生 3 名全員が今後も引き続き制度を利用したいとアンケートに書いている。また、上級学年の留学生からも利用を希望する声があがっている。しかしながら、チューターを必要とする留学生の数に対してチューター役の日本人学生数が少ないのが現状である。今回チューターを引き受けてくれた 5 名の日本人学生のうち 3 名は今後も継続してチューターとして活動することを希望している。そうした学生を中心にキャンパス全体への情報発信に努めて一人でも多くのチューターの獲得をしていきたい。

今回導入をしたチューター制度は、主に留学生=サポートが必要な側、チューター=サポートを提供する側という視点からスタートした。しかし、報告会での学生（チューター）の発言から見えてきたのは、チューター制度は双方が教える側でもあり、学ぶ側でもあるということである。

最近の傾向として、国籍にかかわらず学生が学生を教え支え合うピアサポートが注目されている。チューター制度も今後は、留学生とチューターの学生双方が教えあい、学びあえる制度になっていくことが求められる。その制度づくりに力を注いでいきたい。

